



## 倒れた名木 復興の象徴に

③春のJR日田彦山線に満開の花を添えて  
たころの「吉木のヤマザクラ」——添田町提供  
④添田町は倒れた「吉木のヤマザクラ」を切  
断して倉庫に保管している

九州北部豪雨で倒れた樹齢約300年の「吉木のヤマザクラ」(樹高約16m、幹回り約4・6m)をモニュメントにして復興のシンボルにしようと、添田町は10日、制作費など事業費170万円をインターネット上のクラウドファンディング(CFD)で募ると発表した。14日から来月29日まで受け付け、1万円以上の寄付者にはヤマザクラの木片をプレゼントするキーホルダーの文字を組み合わせたデザインを施す。

### 添田町 ネットで事業費募る

木片には、桜の花と「吉木」の文字を組み合わせたデザインを施す。町がCFDを活用するのは初めて。田川市内で記者会見した寺西明男町長は「町を代表するヤマザクラだった。町内外の惜しむ思いを形にするため、一般会計ではなく、あえてCFDでモニュメントを作り、被災者の心の復興のシンボルとした」と意義を強調した。問い合わせは町まちづくり課0944・82・5996

【峰下喜之】

## 彫刻し「守り神」制作

### 九州北部豪雨

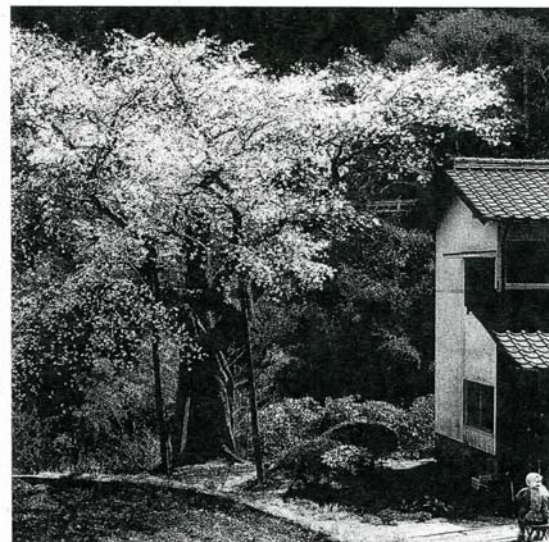
につかり、9月13日に倒木を確認した。

モニュメント制作は、町ゆかりの英彦山山伏の子孫、知足美加子・九州大学芸術工学研究院准教授(52)に依頼する。町が保管する倒木を彫刻し、英彦山霊場の守り神「花開童子」をイメージした高さ40cmほどの座像に仕上げる計画。豪雨による不通区間の再開を願って、来年3月に彦山駅への設置お披露目を予定している。一方、寄付の返礼品とするキーホルダーの

## 豪雨被災 桜の倒木で仏像

### 添田町、制作資金170万円募る

添田町は、昨年7月の九州北部豪雨で被災し、根元から倒れた桜の古木を使ってモニュメントを制作することを決めた。インターネットで寄付を募るクラウドファンディングを活用し、14日から170万円を目標に資金を集める。町は「復興のシンボルにしたい」と協力を呼びかけている。(受田幸弘)



満開の花を咲かせる「吉木のヤマザクラ」(2008年撮影、添田町提供)

### 「復興のシンボルに」



モニュメントのモチーフとなる「花開童子」のイラスト(添田町提供)

同町では豪雨で彦山川が氾濫し、住宅の全壊や浸水などの被害が出た。町内を走るJR日田彦山線も線路が流されるなどし、添田・夜明(大分県日田市)間が今も不通となっている。今回、モニュメントに生まれ変わるのは、町町合にあった町天然記念物「吉木のヤマザクラ」。樹齢約300年の高さ16m、幹回り4・6mの古木で、地域の人たちに長く愛されてきたが、豪雨による浸水で根元が腐り、昨年9月の大雨の際に根元から倒れた。桜の幹の一部を倉庫に保管していた町は同10月、モニュメントとして活用する

読売新聞朝刊 (2018年5月11日)

プロジェクトsponsored by 2018年5月で受け付ける。寄付者には感謝状を、モニュメントの銘板に氏名を刻む権利や吉木のヤマザクラで作ったキーホルダーなどの特典を用意する。問い合わせは町まちづくり課(0944・82・5996)へ。